



## セカンドステージで私にできること

NPO法人ASUの会 理事

上田篤子



OMA

女性経営者シリーズ

火曜日の朝、私の両手にはキャスター付きの旅行かばんと大きな袋物、背中にバックという姿に、出会った住民の方から「旅行ですか」とよく聞かれる。「いいえ、これからボランティア活動に行きます」と答える。かばんの中には私の夢と特技の手芸作品や材料がいっぱい詰まっている。

早いものでNPO活動は準備期間を含めて6年になる。定年後の嘱託員時代に、セカンドステージをどう過ごし、“私に出来ることは?”を考えていた頃、現在のNPO法人大阪府高齢者大学の前身であるボランティアリーダーを養成する「シルバーアドバイザー養成講座（ファイナ財団主催）」を知り1年間地域福祉を専攻。そこで出会った仲間たちと堺市で2007年、NPO法人「ASUの会」を設立し現在に至る。仲間は元上場企業の社長、技術者、経営者、看護師、パソコンインストラクターといった多彩な顔ぶれである。

元気なシニアを対象に、3つの事業をしている。

①自然を大切にす環境（BDFの製造と清掃車4台にBDF使用で走行、地域の環境教育等） ②シニアのためのサロン（会員制による趣味の講座）

③市民活動の支援（高齢者生きがいづくり活動支援）で、私は①は廃食油を使ったキャンドルづくり ②は手芸の指導 ③は相談員として事業計画立案・申請・運営に携わり、②の2009年度の実績は年間300日の半数近くを活動し、約600名の会員が利用している。会議もあり、毎日日曜日ではなく、かなり忙しい。

ふりかえると、今春、WTCに移転した大阪府商工労働部企業リサーチグループ（前産業開発研究所）に中小企業診断士の私は研究員として勤務。

花博開催年に、女性の再就職難の背景もあり、雇用される立場ではなく、起業による経済的自立と雇用創出への発想転換を促す「女性起業家の育成事業」を開始した。これが全国的な潮流の牽引役となり、前号の当シリーズNo.2に掲載のFWNの創設となる。社会起業家支援に取り組む現在ともつながる。

さて、セカンドステージで「私に出来ること」を整理したとき、まず好きなこと…それは10代の頃から続けていた編物や刺しゅうなどの手芸と、仕事で培われた企画提案や文書作成等々であった。NPO活動では早速法人設立の申請に必要な書類の作成、運営の資金確保となる助成金申請書類の作成、広報活動・機関紙の編集等に私の出番があった。これらすべては長年の蓄積された資源であり、第二の人生で活かされていることに感謝し、楽しい日々を過ごしている。

今回のシリーズで経営者でない私が支援する立場から、戸惑いながらの6年間の軌跡を紹介した。

健康維持のため、退職後に始めたアクアスポーツに通いつつ、講座で学んだピン・ピン・キラリ・コロリ（キラリは私の造語）を願っている。

## プロフィール

2001年 大阪府立産業開発研究所退職  
 2004年 同商工労働部雇用推進室嘱託員退職  
 2007年NPO法人ASUの会副理事長就任  
 2009年 同 理事 現在に至る  
 2010年 中小企業診断士の登録抹消